会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回体制整備事業実施委員会 |
| 開催日時 | 令和3年9月1日（水）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | オンライン開催 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾  委　　　員：成底　敏、岡村　慎一、泉田　優、小田　政江  川端　康浩　　　　　　　　　　　　　　　　　　計6名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計7名 |
| 議題等 | 1. A類～D類のコンテンツ作成、ならびに実証検証（成底）   【分類ごとの概要】  ・A．知識系分野  　・専修学校設置基準、修学支援関連法令、学校法人会計等、法令関係12コンテンツを作成。  ・菊田様よりの確認要望事項については、受講対象者は経験3～5年の作成担当者、後継者含むということになった。  ・菊田様への謝金は、コンテンツ開発費より支払いを予定。  ・ある程度方向性が出た後、飯塚さんより菊田様へ打診、その後小田先生、山根先生を含めアドバイスをいただくなどのミーティングを開催予定。  ・各書類を作成するにあたり必要な専修学校設置基準項目を昨年度作成した各種申請書一覧に落とし込んだ。この表を元に9月17日の運営員会を目途に、小田先生・山根先生にコンテンツ案を作成いただく。  ・また専修学校設置基準について、有坂中央学園の教職員研修用に作成したスライドを提供いただいた。必要な項目が抜粋され、大変分かりやすいので、承認がいただければコンテンツ作成の参考にしたいと考えている。  ・A類は￥1,980,000、D類は￥550,000の予算があるので、D類と併せて、コンテンツ開発、特に収録・編集について外注を検討したい。また、講師謝金・旅費は同予算から捻出、今年度は作成までとし、次年度配信実施を考えている。  ・学校法人会計については、収支報告書・貸借対照表など財務諸表の見方、繋がりなどを私（成底）から説明することを検討している。  【意見等】  ・コンテンツの収録・編集については外注だが、内容は山根先生・小田先生が作成という見解で良いか。また外注での収録時、誰かが立ち会うのか。（高岡）  →こちらでの案を提示した上で菊田氏のアドバイスを軸に担当委員で開発を進めていきたいと考えている。外注での作成時は、山根先生・小田先生、飯塚さんの立ち合いを考えている。また内容については収録前に委員会で承認を得る予定。（成底）  ・B．マネジメント分野  　・教学マネジメントを軸に上手く運営している学校の情報を収集し、体制整備の実施事例等を紹介するセミナーを開催する。セミナーはワークショップ型、福岡・東京での開催を見込んでいる。  ・実施事例候補として、東京テクニカルカレッジ、埼玉福祉・保育専門学校、奈良保育学院、麻生塾、KBC、アルス、鈴木学園、龍澤学館、穴吹、FSGという案が上がっている。  ・セミナー開催は新型コロナの感染状況を考慮し、12月上旬に設定したい。  　　対面開催を前提とし準備を進めるが、感染症により対面開催不可の場合は、今年度はプログラム作成のみで、セミナーの開催は実施しない予定。オンライン開催でのワークショップは難しいと思われるので、未実施の場合は次年度改めて開催とする。  ・東京テクニカルカレッジの白井校長にセミナーの講師を依頼し、白井校長とミーティング後、調査対象の選定と内容を調整する。ミーティングは9月中を予定している。  ・調査とりまとめを八木さんに外注依頼。外注内容は、川端先生経由で、調査時の聞き取り項目設定、テープ起こし、報告書作成（B・C・D類）を考えている。（八木さん了承済み）  【意見等】  ・今年度三菱総研が教学マネジメントに関するヒアリング調査を行うので、その資料を共有する。コンセプトは本事業と違うが、地域の業界団体や行政と連携した教学マネジメントについて調査が行われる。昨年度までの三菱総研のPJの報告書については、職業教育マネジメントのガイドブックもあるが、別紙4のフォローアップ調査について参考にしていただくと良い。質問項目が重ならないようにしたい。また、A類などは別紙4と法的根拠の紐づきの説明が必要と考えている。（岡村）  →一度すり合わせの機会を作った方が良いか。（成底）  →先方は9月17日に第1回目の委員会が行われるので、その後になるかと思う。（岡村）  ・B類・C類の研修については基本的に対面のみの開催ということで良いか。（飯塚）  →ハイブリッド型では、ワークショップが難しいと考えているので、対面のみを考えている。（成底）  →1部を基調講演、2部をワークショップに分け、1部はオンライン、2部は対面などの開催方法はどうか。（岡村）  →賛成。セミナー配信だと開催時間が限定されるので、オンデマンド配信の選択肢も検討したほうが良い。（飯塚）  →関係者の意見を聞きながら調整する。（成底）  ・C．情報公開などの手法・マーケティング分野  　・自校の魅力を向上させている事例の調査を行い、その内容をセミナーで共有することにより専修学校の情報公開を促す。  ・セミナー開催は12月上旬を設定。対面開催を前提とし、新型コロナの感染状況により不可の場合は、今年度の実施は無しとする。また、白井校長の東京テクニカルカレッジも候補に入れてもいいのではないかと考えているので、併せて相談したい。  ・調査対象の選定基準の設定が難しい。セミナーについては全専研の教育開発委員会事業で情報公開セミナーが開催される予定なので、コラボ企画での実施も考えている。  ・校運営部会で「3つのポリシーについて活用しているかどうか」参加者にアンケートを行った。そこで高知情報ビジネス＆フード専門学校でも活用していると回答いただいたので、参考になればと思う。  ・広報部会でのアンケートでは、アドミッションポリシーはオープンキャンパスなどで説明している学校が多かった。穴吹学園からサブツール・学びをまとめたカリキュラムブックをいただいたのでそちらも確認していただきたい。学生の活動の動画をHPに掲載したところ感触が良かったという話も聞けたが、情報公開はしているもののその活用に関しては全体的に意識が低いように感じた。（小田）  ・魅力的な発信の捉え方の選定基準は難しいが、以前の事業で効果が出ていたYIC京都の取組について再登場いただくことも検討したい。  【意見等】  ・現在のスケジュールを考えるとヒアリング調査が予定通り完了するか不安があるので、できればこの場で調査対象、ヒアリング項目を決めたい。求むべき情報公開の在り方を考慮すると穴吹のカリキュラムブックは高校生の関心を求めるにも、「見られる情報公開」としても十分なものと感じた。調査対象は穴吹、麻生は承諾を得ているのでマスト、単独校で東京テクニカルカレッジ、YIC、岡山情報ビジネス学院の3校、他どこにするか意見を聞きたい。（泉田）  →当校は各学科で3つのポリシーの作成を始めてからコロナ禍もありなかなか進んでいない。アドミッションポリシーをオープンキャンパスで説明はしているが、それ以上参考になるような取組がまだ見えていない。逆に調査に来ていただいて担当者への意識付けを図りたい。良くない例として出していただいても良い。（高岡）  →当校もなかなか進まなかった。先日、近々開催されるオープンキャンパスでの“高校生が理解できるアドミッションポリシーの説明”を要望したが、なぜそれが必要なのかを担当者が理解できるまでかなりの説明を要した。魅力的な情報公開をするために、どのような課題があり、どのようにコンセンサスを取ったのか、目的の共有方法なども含め学内でどのような流れがあったのか、それを紹介するのも必要だと感じる。（成底）  →当学園では先日DP/CP/APの繋がりで言語化を目標とした教学マネジメント研修を実施したが、高校生が理解できるレベルまでの効果は得られなかった。在校生・卒業生・企業の方のそれぞれの人材像をHPやパンフレットで伝えているのは良いが、そこと教員が繋がっていない。スタート時点の人材レベルをどのようにゴール時点の求める人材レベルにするか、トータルで表現することを目標とするようなワークショップや事例が提供できると見る側も納得できるのではないか。（岡村）  →日々の学生へのカリキュラムの説明と3つのポリシーが繋がっていないのが現状。そこを教員が理解して、「誰でも入学してください」ではなく、募集案内として次のステップに進めるような取組みになると良い。（成底）  →興味深い分野ということもありいろいろなテーマが出てくるので、スケジュールを考慮し、そのテーマの要約を進めていきたい。（川端）  ・穴吹はガイドブック作成の背景や作成の流れ、またその後の活用、運用上の課題について、YIC京都は取組課程についての調査が候補に上がる。他にヒアリング先の意見はあるか。（成底）  →成底先生の話は成功事例と失敗事例を学べ、先生方の気付きに繋がるのでないかと考える。KBCを対象に入れてはどうか。（岡村）  →対象校は穴吹、麻生、KBC、YIC、龍馬学園、岡山情報ビジネス学院の6校でどうか。ヒアリング項目は9月17日の委員会までに重点項目をまとめて提示し承諾いただいたらヒアリング調査に進むというスケジュールにしたい。調査方法はその状況に合わせて対面かオンラインかを検討する。（泉田）  →調査実施にあたり、D類の調査はC類の調査と同時に行うことになっている。そこを念頭に置いて欲しい。またC類の研修の受講対象者は誰か。（飯塚）  →A～D類全て、現場の教員を動かすためのマネジメント人材が対象と考える。（成底）  →新型コロナの感染状況を考慮すると、オンライン調査となってもあまり支障が無いと考えられ、またシラバス作成についてもしっかり運用できていると思われるので、先ほどあげた調査対象校6校にC類とD類のヒアリングをするということでどうか。（泉田）  →調査方法については、内容から見ると対面が好ましい。現状のスケジュールでは調査開始は10月頃になるので、もう少し様子を見る。（成底）  ・D．教育系分野  ・「シラバスを作成できるようになるための研修」とは異なり、シラバスを確認する側に必要なものを提示する。福岡大学の植上先生に講師を依頼することとなっている。一度植上先生と方向性を確認し、今年度はセミナー開催ではなくコンテンツ開発とし、委員の皆さんの学園でテスト運用、テスト運用のレポートをD類の今年度の成果として報告書にまとめようと考えている。    【本日の決定事項】  ・A類  ・9月17日の委員会までにコンテンツ案作成。担当：小田先生・山根先生  ・B類  ・東京テクニカルカレッジの白井校長と方向性をミーティング後、調査対象の選定と内容を調整する。三菱総研のアンケート内容を確認した上でヒアリング項目を調整し、10月以降ヒアリング調査実施。  ・白井校長との日程調整については飯塚さん担当。  ・C類  ・調査対象は穴吹、麻生、KBC、YIC山口、龍馬学園、岡山情報ビジネス学院の6校。9月17日の委員会までにヒアリング項目たたき台を作成。担当：泉田先生・川端先生  ・9月10日（金）13時～打ち合わせ実施  　※事前に案を共有し素案作成。担当：泉田先生  ・D類  ・植上先生とのミーティングについては、日程調整後連絡。   1. その他（岡村）   ・質保証については文科省が今年から委員会を復活し来年度に向けて動いている。それに踏まえ全専各連で専門学校団体として申し入れをする委員会を作り、9月13日に4回目の委員会が実施される。恐らくその後文科省への申し入れがされる。その申し入れの裏付けとして三菱総研で調査を行う。そのような活動の状況も共有していければと考えている。皆さんにもこのような動きがあることを承知していて欲しい。  ・受講者管理のしくみについては、全専研でアカウントを作成するのが良いが、必要であれば、有坂学園でアカウントの一時的な貸し出しを対応いただけるとのこと。今年度は特に必要ないが、次年度を踏まえ全専研内で打診を進める。  3. スケジュール  ・第2回運営委員会…9月17日（金）10時～＠岡山（オンライン併用）  　宣言が延長されたらオンライン会議のみを検討する。  ・第3回実施委員会…10月22日（金）15時～＠福岡（オンライン）  　新型コロナの感染状況を見てオンライン会議のみ検討する。 |
| 配布資料 | ・210901 委員会資料  ・01\_委員名簿\_v02  ・02\_本年度の事業概要\_v06（ご送付用） |

以上